OISO MUNICIPAL MUSEUM

リポート Report

大磯町郷土資料館だより
2013·3·29
33

目次

2 大磯石仏クラブ活動報告
4 古文書解読クラブ活動報告
6 2012 アカウミガメ産卵確認の記録
7 震災を経験した鉄道と煉瓦 ／ 平成 24 年購入資料の紹介
8 博物館実習生による「受け継がれる地曳網」展 ／ 資料の寄贈

大磯石仏クラブの活動
（馬頭観音の撮影／高麗山麓／
平成24年7月7日）

古文書解読クラブの活動（平成24年12月8日）

大磯石仏クラブ活動報告

当館では、大磯町域の石造物調査を行っています。本調査は、平成７年までに刊行された石造物調査報告書を基に、前調査の誤読や見落とした石造物、新たに設置された石造物を確認する再調査となります。

調査員は、昨年度に行った講習を受けた町民の方々です。毎月３、４人の参加があり、町中を歩き石造物を記録していきます。記録作業が簡単にできる石造物もあれば、難しい石造物もあります。刻文の判読が困難になっている場合は、文字に小麦粉を入れ込むことで読みやすくし、また草に覆われている場合は、草を掻き分けて確認しなければなりません。このような場合に、気をつけなければならないのは、石造物の傷みを最小限に抑える事です。１月の調査では、100名以上の名前が刻まれた手洗石を調べました。この際に、会員の方々は、読み難い文字に丁寧に小麦粉を吹きつけることで読み易くし、一人一人の名前を丁寧に調べてくださいました（写真①）。

ここからもわかるように、石造物調査は非常に根気の要る作業です。2013年２月現在で、７冊の報告書の内１冊分の再調査が終わった段階です。調査を始めてから約１年経つことを考えると単純に計算しても７年もの歳月を費やさねばならないでしょう。内容的にも時間的にも根気の要る調査ですが、これからも調査員の皆様方と共に地道に進めていければと思います。

また、前調査で確認されている一部の石造物を見つけることができませんでした。山王町の共同墓地内にあった２基の馬頭観音の内の1基と地蔵菩薩です。未確認の石造物の所在やその他の石造物の由来などご存知の方は、資料館までご一報いただければ幸いです。

新たに確認した石造物

大磯町域には多くの石造物が古くから作られてきました。旧調査で確認された石造物数は、1,088基に上ります。内容を見てみると、地蔵や庚申塔、鳥居等の信仰対象となる所謂石仏から記念碑や句碑、モニュメントまで多岐に渡ります。旧調査で確認された石造物の内、約9割が信仰に関連しています。

全国的に信仰対象、また自らの信仰を不変性の高い石

写真① 調査風景

によって表現していたことは周知の事実ですが、大磯町域に住んでいた人々も例にもれず、その信仰を石に刻んでいたことがわかります。

本年度の調査は、大磯町域東端に当たる高麗（高麗山、慶覚院、高麗共同墓地、善福寺）、山王町（日枝神社、無縁塚、強力稲荷）、神明町（神明神社、楊谷寺）、北下町（道祖神社）、を対象地域として行いました。

新たに確認した石造物は、16基ありました（表を参照のこと）。前調査の見落としと思われるものが４基、別の場所から運ばれたと思われるものが３基、新たに建てられたと思われるものが９基ありました。前調査以後に建てられたと思われる石造物は、サクラ植樹記念碑、石祠、地蔵、本堂新築落慶碑、甘露水之塔、供養石、即如上人巡回記念植樹碑、無縁の墓、楊谷寺名号塔です。これらの石造物の多くは、信仰対象もしくは建立者の信仰を示すものと考えられ、狭い地域に10基近い信仰に関する石造物が建てられている状況は意外に思われます。と言うのも、現代の日本人は超自然的存在に対する信仰が希薄になってきていると考えられているからです。しかし、未だに信仰に関わる石造物が作られている事実は、心の中に消えきらない信仰・文化が残っていることを教えてくれます。

日枝神社の青面金剛像と祠型庚申塔（写真②）

日枝神社の一角には、庚申塔が10基並んでいます。その端に、壁の一部しか残っていない祠型庚申塔とその中に青面金剛像が安置されていました。

青面金剛像は、道祖神とされています。前調査では、道祖神を除外したことから石造物調査報告書に掲載されていませんが、『道祖神調査報告書』に記載されています。近所の方からお話をうかがったところ、この青面金剛像は個人宅にあったものをもってきたもので、左義長の際に用いる道祖神としたそうです。また、祠型庚申塔に関してもお話をうかがったところ、境内にあったとのことでした。前調査で見落とされたのでしょう。ほとんどの部分が欠損しており原形を留めていません。しかし、右側と裏側にはそれぞれ「聞かざる」と「言わざる」を表す猿像が彫られています。そして正面の刻文は、「寛文拾二」と読み取れます。

庚申塔には様々な形態がありますが、祠型庚申塔はその中でも珍しい形です。大磯周辺に見られる祠型庚申塔は、伊勢原、秦野、平塚に合わせて11基存在しており、正保２年から寛文11年の間に建てられています（平塚は年代不明）。17世紀中期は、大磯周辺地域で庚申塔が建て始められた時期にあたります。この時期に建てられた庚申塔は、いくつかの形態が並存しています。祠型庚申塔は、形が定まっていない寛文年間前後に流行した形態のようです。

（当館学芸員／保坂匠）

写真② 青面金剛と祠型庚申塔

名　　称	所 在 地	造 立 年
サクラ植樹記念碑	高麗山	昭和61年
境界石	高麗山	不明
石祠	高麗山	平成22年
地蔵	高麗山	近年か
本堂新築落慶碑	慶覚院	平成20年
甘露水之塔	慶覚院	平成５年
供養石	高麗	近年か
五輪塔一部	高麗	不明
即如上人御巡回記念植樹碑	善福寺	平成３年
手洗石基壇	神明神社	不明
三澤川名碑	山王町	昭和15年
三澤橋名碑	山王町	昭和15年
無縁の墓	無縁塚	近年か
庚申祠	日枝神社	寛文12年
楊谷寺名号碑	楊谷寺	平成23年
手洗石	楊谷寺	不明

表　新たに確認した石造物

参考文献

秦野私立南公民館道祖神調査会、『秦野の道祖神・庚申塔・地神塔－秦野の文化財　第25集』、秦野市教育委員会、1989年。

石仏を調べる会、『平塚の石仏―改訂版―　1平塚地区編』、平塚市博物館、1998年。

石仏を調べる会、『平塚の石仏―改訂版―　7城島地区編』、平塚市博物館、1999年。

石仏を調べる会、『平塚の石仏・改訂版2　岡崎地区編』、平塚市博物館、2002年。

伊勢原市教育委員会社会教育課、『伊勢原市文化財調査報告書代13集　伊勢原の庚申塔』、伊勢原市教育委員会、1988年。

古文書解読クラブ活動報告

平成24年８月４日から、当館の新しい行事として、古文書解読クラブを始めました。ここでは、活動を始めた経緯と解読クラブの活動内容を報告します。

古文書解読クラブ立ち上げの経緯

当館では、平成16年度から古文書裏打ちクラブという古文書を修復するボランティアサークルを行っています。このクラブでは、会員の方が主体となって、当館が所蔵する古文書の裏打ちを行っていますが、活動を始めた段階で古文書の扱いを専門とする職員がいなかったこともあり、裏打ちが済んだ古文書は収蔵されたまま整理されてきませんでした。近年では、裏打ちの対象として、屏風や襖の下張り文書を扱っていますが、剥がした下張り文書を順番に裏打ちしたまま整理作業は進んでいない状況です。

せっかく修復した古文書ですが、このままでは博物館資料として充分に活用することができません。すぐにでも整理を行いたいところですが、裏打ちクラブの活動が始まって８年、未整理の古文書は膨大に蓄積されています。そこで、裏打ち作業と同じように、整理作業も市民の方々と一緒にできないか考え、古文書解読クラブを立ち上げました。

古文書解読クラブの活動

博物館で行う古文書解読講座というと、講師の先生がテキストとなる古文書を解読し、参加者に解読の方法を教えるという形式が思い浮かべられます。しかし、今回活動を始めた解読クラブは、必ずしも講義形式を取っていません。会員の中には、他の博物館などで古文書を解読したことがあるという経験者がいらっしゃいます。そのような方には、読みたいと希望する古文書を各自で自由に読んでもらっています。

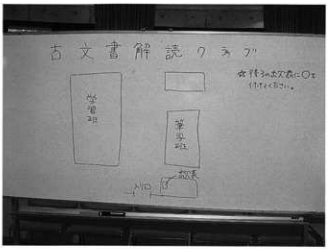
一方、古文書を全く解読したことがないという初心者の方もいらっしゃいます。そのような方には、テキストを選び、いわゆる講義形式で、当館学芸員が解読の方法を説明しています。

クラブを始めた当初は、どのような方が会員として応募されるかわかりませんでした。７月の広報で定員15名として会員を募集したところ、定員を上回る17名の募集があり、２名の方はお断りせざるを得ませんでした。８月４日の初日、まずは顔合わせということで、クラブの目的や、古文書解読における心構え、古文書調査の方法を説明し、自己紹介を行いました。自己紹介をうかがうと、現役の大学生から他の博物館で古文書を解読されていた方まで、さまざまな背景を持つ方々が集まっていらっしゃることがわかりました。

解読した古文書。長いので時間がかかりました。

９月15日、２回目のクラブでは、試しにある古文書をテキストとし、講義形式で会員の皆様と読んでみました。様子をうかがうと、やはり、経験者と初心者でクラブに求められていることが異なる、つまり、講義形式での解読を望まれる方と講義形式での解読では物足りなさを感じてしまう方がいらっしゃることがわかりました。そこで、３回目以降は、古文書を各自で自由に読む「筆写班」、古文書を講義形式で読む「学習班」と、希望によって分かれて活動を行うことにしました。

班を分かれて活動してしまうと、それぞれの班でどのような古文書を読んでいるのか、わからなくなってしまいます。この欠点をなくすため、クラブの初めに、前回のクラブで解読した古文書を報告する時間を設けることにしました。この時間が、自分が関心を持たなかった古文書を理解する楽しみになると、好評いただいています。



3回目からは2つの班に分かれて活動！

平成24年度の活動報告

古文書解読クラブは、月1回、原則第一土曜日に活動しています。平成24年度は年度途中からの活動であったため、合計8回の活動を行いました。

本年度に解読の対象とした古文書は、伊東家（山口修氏）旧蔵資料という資料群です。この資料群は、平成11年に当館に寄贈された古文書群であり、平成17～18年頃に古文書裏打ちクラブで修復を行った資料です。裏打ちを行った際に、一点一点封筒に納められ、一部には資料番号や資料名が書かれていましたが、目録は作成されていません。まずは、この資料群を解読し、完全な目録を作成することを、解読クラブの目標としています。

伊東家（山口修氏）旧蔵資料は、もともと町内の方からご寄贈いただいた資料ですが、ご縁戚の関係から、古文書の内容は江戸～明治時代の相模国高座郡用田村（現藤沢市用田）に関するものです。

江戸時代の用田村は、村高約540石、家数89、複数の藩や旗本に支配される相給村落であり、村を通る中原道と大山道が交差する場所には継立場がありました。この用田という地域には、伊東三軒という大地主がいて、伊東孫右衛門、伊東幾衛門、伊東宗兵衛の3軒で村のことが決められていたと言われています。解読した古文書の中にも、この3人の名前が見られますが、3家の内のどの家の資料群であるかはわかっていません。

8回の活動を通して解読した資料は、14点。総点数251点の資料に対して先は長いですが、文字の解読もさることながら、古文書の内容を理解するという真の意味での古文書の解読を重視して、目標を目指していく予定です。

筆写班の方からの報告。皆、真剣です。

おわりに　―今後の展望

クラブ立ち上げの経緯から、いわゆる講座形式の行事ではないことをご理解いただけるかどうか、クラブのメンバーで一緒の古文書を読みながら、地域の歴史を語ることができるのか、担当者として不安がありました。しかし、クラブの回数を重ねていく内に、解読した古文書に関係する本を読んで、わかったことを報告していただいたり、用田村の伊東家に関係する文献のコピーをいただいたり、会員の皆様の熱心な様子に心配はどこかへ行ってしまいました。

現在、解読を進めている資料群は大磯町域に直接関わる内容ではないため、なかなか土地感覚がつかめません。いずれは、現地訪問や、藤沢市と連携した企画なども考えていきたいと思います。末筆ですが、古文書解読クラブの会員の皆様へ、この場を借りて御礼申し上げます。

（当館学芸員／大石三紗子）

参考文献

下中邦彦編、『日本歴史地名大系　第14巻　神奈川県の地名』、平凡社、1984年。

藤沢市教育文化研究所編、『稲作慣行調査報告書　円行・打戻・用田地区』、1976年。

2012 アカウミガメ産卵確認の記録

2012年は2010年以来、２年ぶりに産卵が確認されました。残念ながら卵は無精卵であったため、孵化は確認できませんでしたが、2002年以降に見られている本町でのアカウミガメの産卵活動は多いとはいえませんが、毎年、数件ずつ継続して見られています。2012年の確認状況をお伝えします。

2002年以降、大磯町ではアカウミガメの産卵・孵化が５件確認されています。本町の地域名でいうと、大磯港を中心に東側は大磯町大磯、東町の海岸、西側は西小磯の海岸です。2010年は大磯、西小磯の海岸２箇所で確認され、ふたつの産卵巣から計174個体の子ガメが脱出し、大海へと旅立ちました。以降の状況はというと、2011年は国府本郷と西小磯の海岸２箇所で上陸が確認されましたが、卵は確認できませんでした。おそらくこの理由というのは、通常、アカウミガメは50㎝程度穴を掘ってから産卵をするのですが、２箇所とも砂の表面から20～30㎝下の所に固い岩の層が広がっていたため、親ガメが産卵に適した環境ではないと判断したのではないかと考えます。そして2012年、年毎の数としては最も多い４箇所で上陸確認の通報がありました。そのうちで、卵が確認された場所は１箇所。2011年の状況とは異なり、いずれも近々に見られた５件の産卵・孵化とは環境の面で相違はないように思われましたが、３箇所からは卵が全く確認できませんでした。その後、卵が確認できなかった３箇所について９月29日まで、産卵巣の状況を確認しましたが、結局、子ガメの脱出を確認することはできませんでした。

孵化調査後の卵殻（９月29日撮影）

ウミガメが上陸した足跡（８月７日撮影）

卵が確認された産卵巣の確認から孵化調査までの状況をご紹介します。ウミガメの上陸の連絡をいただいたのは、８月７日のことでした。場所は東小磯の海岸で、近所にお住まいの瀬戸さんが上陸の足跡をもとに産卵巣、そして卵を確認され、大磯町役場を通して郷土資料館に連絡をいただきました。瀬戸さんにご案内をしていただき、卵を確認。写真を撮影し、卵のトップの位置を計測しました。ちなみにトップの卵の位置は32㎝でした。孵化までの産卵巣の環境を考える上で、海水浴シーズンでしたが、禁泳区域であるため、人の往来は少なく、また、海岸線からの距離も十分にあり、仮に台風が通過しても潮をかぶる危険性が少なかったため、自然孵化で見守ることにしました。産卵確認後44日目の９月20日から孵化・脱出の記録を取るために調査を開始しました。子ガメの足跡の痕跡、産卵巣上部の砂の移動等細かくチェックしましたが、10日経っても変化が見られず、９月29日に孵化調査を行いました。産卵巣の内部を確認してみて最初に驚いたことは、卵殻の数の少なさです。これまで、孵化調査を行った時は100個を超える卵殻を確認することが多かったのですが、58個しかありませんでした。また、いずれの卵殻にも卵黄が残り、腐敗のため、異臭を放っていました。卵殻の中に子ガメの成長の過程である胚は見られず、一目で無精卵であることが判断できました。

2012年の産卵・孵化の状況は、残念な結果に終わりましたが、毎年、上陸は数件見られており、きっと近い将来、大磯町の浜で、子ガメが海へと旅立つ様子が見られると思います。その時を楽しみに待ちたいと思います。大磯町内でウミガメの上陸の足跡を確認されたら、是非、当館へご連絡をお願いします。

（当館学芸員／北水慶一）

震災を経験した鉄道と煉瓦

「汽笛一声新橋を」で始まる有名な鉄道唱歌の11には、「支線をあとに立ちかへり　わたる相模の馬入川　海水浴に名を得たる　大磯みえて波すゞし」とある。明治20年（1887）新橋―国府津間が開通、大磯駅が営業を開始した。これを契機に大磯町は避暑地、避寒地として飛躍的な発展を遂げた。

ところで、東京―横浜間の工事では煉瓦を一切使わず、すべて石材を使用したことが知られている。一方横浜以西の鉄道工事では、盛んに煉瓦が使われている。例えば、茅ヶ崎市の中島川架道橋、平塚市の馬入川橋梁、大磯町の鴫立川暗渠、花水川橋梁、二宮町の葛川橋梁、山西架道橋、小田原市の押切架道橋などである。このうち、馬入川橋梁と花水川橋梁は関東大震災により倒壊しているが、馬入川橋梁はその様子を一部見ることができる貴重な災害遺跡である。

さて、こうした鉄道橋梁に使われた煉瓦の製造元はどこであろうか。残念ながら特定するに至っていないのが現状である。

平成24年５月から馬入川橋梁の現地調査を実施したところ、旧下り線橋脚には、手抜成形煉瓦の他に、機械成形煉瓦の存在も明らかにすることができた。しかも、川底からは楕円区画に「土敷免製」と刻印された煉瓦を採集した。これは、わが国最初の本格的な煉瓦製造会社である明治20年設立の日本煉瓦製造会社の製品で、表面に細縞状の痕跡を有する煉瓦である。以前には桜マークの刻印を有する小菅囚治監製の煉瓦も採集しているので、複数の煉瓦工場から供給されたものと考えられる。鴫立川暗渠でも同じ煉瓦が見つかっており、少しずつ製造元がわかってきた。

（当館元館長／鈴木一男）

倒壊した馬入川橋脚

平成24年購入資料の紹介

当館では資料収集の一環として、大磯の歴史に関する資料を購入しています。写真の資料は、ご存知、大磯に海水浴場を開いた松本順の書簡です。年代は不明ですが、松本順が中野貢次郎と村山半に宛てた書簡と封筒、中野から村山に松本からの手紙を受けて宛てられた書簡（写真にはなし）という３点セットになっています。

まず、松本から中野、村山に宛てられた書簡には、大磯の三宅藤兵衛が国産麻の販売を始めたため、松本が100円分の麻を引き受けたので、商売の世話をしてほしいということが書かれています。三宅藤兵衛は、江戸時代から続く地元の有力者で、善兵衛池を開いた三宅善兵衛の子孫に当たります。もともと大磯で商売をやっていたようですが、新たに国産麻の商売を始めたことがわかります。そして、松本はこの商売を助けようと、知人と考えられる中野や村山を頼りました。また、封筒の宛先は関口になっており、書簡に登場する人物のほかにも三宅を紹介したようです。中野、村山、関口について詳しいことはわかりませんが、海水浴場を開設して以来、大磯の発展を支えた松本の一面を知ることができる書簡と言えます。

（当館学芸員／大石三紗子）

平成24年度博物館実習生による

「受け継がれる地曳網」展

当館では、毎年、博物館学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れており、実習の一環として常設展示室の一部コーナーを使って、実習生自らが企画から完成までを実践する展示替実習を行っています。

本年度は「受け継がれる地曳網」という、大磯町域で古くから行われている漁法の一つである地曳網に注目し、地曳網の方法や現状について、写真や模型を展示することによって紹介しています。展示を行うにあたって、実習生達は地曳網の現場へ取材にも行きました。平成25年8月末頃まで展示していますので、ぜひご覧ください。

【平成24年度博物館実習生】

資料の寄贈（平成24年3月～平成25年2月）

地区	受入先	資料名
高麗	小林敏男 氏	浅野総一郎自解
	曽根田奈々子 氏	古文書
大磯	小林佳代子 氏	近代紙幣 他
	宮代治吉 氏	一本松講中稲荷資料
	佐藤 勇 氏	ツキンボウの柄
	木村純子 氏	裾除け 他
	内田もと子 氏	祝儀道具 他
	飯田善雄 氏	修了証書 他
	森田康夫 氏	卒業証書 他
	大磯町漁業協同組合	ウナギガマ
東小磯	大本潤一 氏	昭和二十年 戦災記録簿 大磯駅
	上森直美 氏	屏風下張り文書
西小磯	小見滋夫 氏	日誌 他
	戸塚 浩 氏	稲荷講資料
	久門建正 氏	ケアシガニ
西小磯	鈴木照子 氏	庚申講用具
	鈴木 昇 氏	碟石鉾
	小川路子 氏	雑誌 他
国府本郷	井上益夫 氏	書幅 他
	松本卓次 氏	千円紙幣（C号券）他
	浦田福代 氏	火打石セット 他
二宮町	池田君子 氏	雛人形
平塚市	川崎光代 氏	雛人形
	柳川正夫 氏	日本万国博覧会パンフレット他
茅ヶ崎市	河野南歐子 氏	色紙（千曲川旅情の歌）他
秦野市	杉原充矩 氏	貝類標本
小田原市	諏訪部敬子 氏	絵葉書
東京都	神崎秀珠 氏	吉田茂関係書簡 他
	東京倉庫運輸株式会社	梨本宮守正別荘平面図

ご協力ありがとうございました。

編集後記

初めて「郷土資料館だより」を編集しました。郷土資料館での仕事も2年目になりましたが、まだまだ慣れないことも多く、勉強の毎日です。今回は郷土資料館の新しい活動、「大磯石仏クラブ」と「古文書解読クラブ」を報告しました。郷土資料館は来年度で開館してから25年を迎えます。新しいことを取り入れ、少しずつ進化していく郷土資料館を、今後ともよろしくお願い致します。 (O)

Report －大磯町郷土資料館だより－ No.33
平成25(2013)年3月29日発行

編集・発行 大磯町郷土資料館
〒255-0005 神奈川県大磯町西小磯446-1
TEL.0463(61)4700／FAX.0463(61)4660